

# 心理学理論と心理的支援 模擬問題と解答編

7問（8～14番）  
よく出題されるもの  
欲求、学習、記憶  
心理療法・心理検査・ストレス

8. 人間の感情に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 感情を作り出す中心的な脳の部位は、前頭前野である。
- 2 社会的な感情は、1歳後半から出現する。
- 3 アンガーマネジメントとは、怒りの感情を好意や喜びなどの感情に変換することである。
- 4 社会的微笑とは、生後まもなくから本能的な反射として現れるものをいう。
- 5 子供が大人の表情を手掛かりにして行動する「社会的参照」は、2歳ごろからみられる。

8. 人間の感情に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

1 感情を作り出す中心的な脳の部位は、前頭前野である。→感情の形成に重要なのは偏桃体。  
前頭前野は偏桃体の興奮を抑える。

2 社会的な感情は、1歳後半から出現する。○

→自己意識や自己評価にかかわる社会的感情（羨望、恥、罪悪感など）は1歳半から3歳ころにかけて大人と同等に示すようになる。

3 アンガーマネジメントとは、怒りの感情を好意や喜びなどの感情に変換することである。

→怒りの原因を把握し適切な反応をすることで問題解決を図るためのスキル

4 社会的微笑とは、生後まもなくから本能的な反射として現れるものをいう。

→「新生児微笑」のこと。

3か月以降になると、自ら応答する「社会的微笑」が見られる。

5 子供が大人の表情を手掛かりにして行動する「社会的参照」は、2歳半からみられる。

→生後6か月ごろから。

1-8. 知覚に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1 錯視とは、視覚の処理過程の特質によって、視認される対象物と実際の対象物とが一致せず、異なって見える現象のことをいう。

2 知覚の体制化とは、物理的刺激の変化にもかかわらず、大きさ、形、色、明るさを同一に保とうとする働きのことをいう。

3 知覚の恒常性とは、分化や群化によって、視覚される複数の不均一な領域が全体のまとまりとなって形成されている現象のことをいう。

4 明順応は、明るい野外から急に暗い屋内に入ると、周囲がよく見えない状態でも徐々に見えるようになる現象のことをいう。

5 知覚的補完とは、知的している対象の物理的特徴と知覚的特徴の差を補おうとする機能のことをいう。

1-8. 知覚に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 錯視とは、視覚の処理過程の特質によって、視認される対象物と実際の対象物とが一致せず、異なって見える現象のことをいう。
- 2 知覚の体制化とは、物理的刺激の変化にもかかわらず、大きさ、形、色、明るさを同一に保とうとする働きのことをいう。→知覚の恒常性
- 3 知覚の恒常性とは、分化や群化によって、視覚される複数の不均一な領域が全体のまとまりとなって形成されている現象のことをいう。→知覚の体制化
- 4 明順応は、明るい野外から急に暗い屋内に入ると、周囲がよく見えない状態でも徐々に見えるようになる現象のことをいう。→暗順応
- 5 知覚的補完とは、知的している対象の物理的特徴と知覚的特徴の差を補おうとする機能のことをいう。→知覚的補完とは、対象の物理的視覚情報が一部欠如していても、欠如した視覚情報を補って知覚されること。

9. マズロー(Maslow. A)の欲求階層説に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 自己実現の欲求を満たすためには、他者の支援が不可欠である。
- 2 各階層の欲求は、上位の欲求が満たされてから、順に低位の欲求が生じる。
- 3 「成長動機」による欲求は、承認欲求である。
- 4 「人間は自己実現に向かって絶えず成長する」考えが背景にある。
- 5 社会的欲求とは、社会生活を送る上で必要な物質や健康への欲求である。

9. マズロー(Maslow, A)の欲求階層説に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 自己実現の欲求を満たすためには、他者の**支援**が不可欠である。  
→自己実現は、階層の最上位にあり、自分の努力によって満たされる欲求である。
- 2 各階層の欲求は、上位の欲求が満たされてから、順に低位の欲求が生じる。**×**  
→低位の欲求が満たされると、上位の欲求が生じる。
- 3 「成長動機」による欲求は、承認欲求である。**×**  
→成長欲求は自己実現欲求のみであり、それ以外は欠乏欲求に含まれる。
- 4 「人間は自己実現に向かって絶えず成長する」考えが背景にある。  
→欲求階層説。人間行動全般に関する理論で心理学を超え、周辺領域に影響を与えた。
- 5 社会的欲求とは、社会生活を送る上で必要な物質や健康への欲求である。**×**  
→社会的欲求とは、親和欲求ともいわれ、「他者と関わりたい。集団に所属したい」という欲求である。

2-8. マズロー (Maslow, A. H.) の欲求階層説に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 生理的欲求は、経験や学習から獲得される欲求である。
- 2 安全の欲求は、最も基底にある欲求である。
- 3 承認・自尊の欲求とは、自分自身の価値を自己で認めることである。
- 4 生理的欲求から承認・自尊の欲求までを、欠乏欲求という。
- 5 最上位の自己実現の欲求は、発達欲求といわれている。

2-8. マズロー (Maslow, A. H.) の欲求階層説に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 生理的欲求は、経験や学習から獲得される欲求である。→生命を維持するための本能的な欲求
- 2 安全の欲求は、最も基底にある欲求である。→基底にあるのは生理的欲求
- 3 承認・自尊の欲求とは、自分自身の価値を自己で認めることである。  
→他者に認めてもらいたい
- 4 生理的欲求から承認・自尊の欲求までを、欠乏欲求という。
- 5 最上位の自己実現の欲求は、発達欲求といわれている。  
→最上位は、成長欲求である。

11. 防衛機制に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 反動形成とは、相手に対して強い憎しみや嫌悪の感情をもちながら、過剰に親密にふるまうような行動をとることをいう。
- 2 抑圧とは、自分もっている怒りの感情を、相手もっているものだと思うことである。
- 3 昇華とは、相手に怒りや非難をぶつけた後で、ほめたり機嫌を取ったりするような行動をいう。
- 4 退行とは、受け入れがたい苦痛や不快感を引き起こすような体験を、意識から追い出し隔離することで自分を守ろうとすることをいう。
- 5 投影とは、一人っ子であったのが、弟や妹が生まれて、母親がその世話にかかりきりになるようなときに、赤ちゃん返りする場合のことである。

11. 防衛機制に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 反動形成とは、相手に対して強い憎しみや嫌悪の感情をもちながら、過剰に親密にふるまうような行動をとることをいう。
- ✕ 2 抑圧とは、自分もっている怒りの感情を、相手もっているものだと思うことである。  
→「投影」の説明。抑圧は、不安や葛藤をもたらす欲求や衝動を、意識に登らないようにすること。
- ✕ 3 昇華とは、相手に怒りや非難をぶつけた後で、ほめたり機嫌を取ったりするような行動をいう。  
→「打ち消し」の説明。昇華は、抑えがたい攻撃性を、社会的に承認される行動で発散し安定しようとする。
- ✕ 4 退行とは、受け入れがたい苦痛や不快感を引き起こすような体験を、意識から追い出し隔離することで自分を守ろうとすることをいう。→抑圧の説明。  
退行とは、不安や葛藤から自分を守ろうとして、以前の未熟な発達段階へ逆戻りすることである。
- ✕ 5 投影とは、一人っ子であったのが、弟や妹が生まれて、母親がその世話にかかりきりになるようなときに、赤ちゃん返りする場合のことである。→退行の説明

2-10. 防衛機制に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 本当は好きな子に対して悪口を言う、非難するなどの意地悪をすることなどは、知性化の例である。
- 2 抑圧とは、自分の中にある欲求や感情が他人の中にもあるように思うことである。
- 3 一人っ子であった家庭で新たに弟妹ができた際に、それまでみられなかった赤ちゃん返りのような行動をみせることを退行という。
- 4 合理化とは、そのままでは満たされにくい欲求や衝動を、社会的に認められる形で満たそうとすることをいう。
- 5 欲しい洋服が売り切れてしまっていたため、似たようなデザインの別の洋服を購入するのは、置き換えの例である。

2-10. 防衛機制に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 本当は好きな子に対して悪口を言う、非難するなどの意地悪をすることなどは、知性化の例である。→**反動形成**
- 2 抑圧とは、自分の中にある欲求や感情が他人の中にもあるように思うことである。  
→**投影**
- 3 一人っ子であった家庭で新たに弟妹ができた際に、それまでみられなかった赤ちゃん返りのような行動をみせることを退行という。
- 4 合理化とは、そのままでは満たされにくい欲求や衝動を、社会的に認められる形で満たそうとすることをいう。→**昇華**
- 5 欲しい洋服が売り切れてしまっていたため、似たようなデザインの別の洋服を購入するのは、置き換えの例である。→**代償**

1-9. 記憶に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

第34回  
展望記憶

- 1 作動記憶とは、短期記憶において長期記憶に送るための操作のことである。
- 2 長期記憶とは、長期間保存することができる記憶のことであり、記憶容量は $7 \pm 2$ チャンクといわれている。
- 3 意味記憶とは、ものごとの意味や概念などの知識としての記憶である。
- 4 手続き記憶とは、自分が過去に経験した出来事についての記憶のことである。
- 5 展望記憶とは、「将来こうなりたい」などの目標を意味する記憶である。

1-9. 記憶に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 作動記憶とは、短期記憶において長期記憶に送るための操作のことである。  
→暗算するのに、計算に必要な数字を覚えておくなど、必要な情報を短時間だけ保つ短期記憶
- 2 長期記憶とは、長期間保存することができる記憶のことであり、記憶容量は $7 \pm 2$ チャンクといわれている。→長期記憶は無限。 $7 \pm 2$ チャンクは短期記憶の容量。
- 3 意味記憶とは、ものごとの意味や概念などの知識としての記憶である。  
→意味記憶は長期記憶。
- 4 手続き記憶とは、自分が過去に経験した出来事についての記憶のことである。  
→手続き記憶とは、自転車の乗り方など体で覚えた記憶
- 5 展望記憶とは、「将来こうなりたい」などの目標を意味する記憶である。  
→「〇月〇日に友人と会う」などの今後の予定に関する記憶のこと。

2-9. 記憶に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 子どものときの体験や生活史の再生のように、一定の時間的経過の後に思い出せる記憶は、短期記憶である。
- 2 学習したり、覚え込むことは、記憶の段階でいうと保持である。
- 3 一般的な知識や概念に関する記憶は、手続き記憶である。
- 4 記憶を時間的な経過で分類すると、陳述記憶と非陳述記憶に分類できる。
- 5 本日の昼食のメニューなど、自分に起こった出来事に関する記憶は、エピソード記憶である。

2-9. 記憶に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 子どものときの体験や生活史の再生のように、一定の時間的経過の後に思い出せる記憶は、短期記憶である。→一定時間経過後に思い出せる記憶は長期記憶。
- 2 学習したり、覚え込むことは、記憶の段階でいうと保持である。  
→記憶は、記銘、保持、想起の3つのプロセス。覚えるのは記銘。
- 3 一般的な知識や概念に関する記憶は、手続き記憶である。  
→記述は、意味記憶の説明。
- 4 記憶を時間的な経過で分類すると、陳述記憶と非陳述記憶に分類できる。  
→時間的な経過の分類は短期記憶と長期記憶。陳述記憶は言葉で伝えられる記憶
- 5 本日の昼食のメニューなど、自分に起こった出来事に関する記憶は、エピソード記憶である。

10. 自分も他者も同じ内容の簡単な課題を行っているが、互いの交流はなく、かつ個人の成績が明らかな場合に生じる集団の影響として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 傍観者効果
- 2 グループシンク
- 3 社会的手抜き
- 4 集団極性化
- 5 社会的促進

10. 自分も他者も同じ内容の簡単な課題を行っているが、互いの交流はなく、かつ個人の成績が明らかかな場合に生じる集団の影響として、最も適切なものを1つ選びなさい。
- 1 傍観者効果→自分の周りに同じような傍観者が多いほど、行動を起こさなくなる。
  - 2 グループシンク→集団で意思決定をする際に、個人の決定よりも非合理的なものになること。  
(集団思考)
  - 3 社会的手抜き→各人の努力が目立たない状況においては、一人ひとりの努力が低下すること。
  - 4 集団極性化 →意思決定をする場合、集団では個人よりもより危険な方向またはより安全な方向へ向かう傾向のこと。
  - 5 社会的促進 →単純な課題を行う際には、そばに他者がいることで作業効率や成果が高まる現象。社会的促進が生じる場合には、同じ課題を行っている他者がいることによるものと、単に他者が傍らで見ているだけで生じるものがある。

1-10. 集団に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 周囲で見ている人がいると作業が速くなるなど、個人の作業成績が向上する現象を同調行動という。
- 2 複雑な作業を集団で行うと作業量が低下することを社会的抑制という。
- 3 集団作業の成果が自分に対する影響が大きいと判断されると、個人の作業量や努力が向上することを社会的促進という。
- 4 集団作業の成果が自分に対する影響が小さいと判断されると、個人の作業量や努力が低下することを社会的ジレンマという。
- 5 集団の多数派の影響や期待により、個人の行動や判断基準、価値基準などを集団の傾向に合わせてしまう現象を社会的手抜きという。

1-10. 集団に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 周囲で見ている人がいると作業が速くなるなど、個人の作業成績が向上する現象を同調行動という。→ **社会的促進の説明**
- 2 複雑な作業を集団で行うと作業量が低下することを社会的抑制という。  
→ **社会的抑制は、複雑な作業で起こりにくい。**
- 3 集団作業の成果が自分に対する影響が大きいと判断されると、個人の作業量や努力が向上することを社会的促進という。  
→ **社会的補償の説明。社会的促進とは、周囲で見ている人がいると作業が速くなるなど、個人の作業成績が向上する現象をいい、単純な作業や課題で起こりやすい。**
- 4 集団作業の成果が自分に対する影響が小さいと判断されると、個人の作業量や努力が低下することを社会的ジレンマという。  
→ **記述は社会的手抜きの説明。**
- 5 集団の多数派の影響や期待により、個人の行動や判断基準、価値基準などを集団の傾向に合わせてしまう現象を社会的手抜きという。→ **記述は同調行動。**

12. 発達段階に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ピアジェ(Piaget.J)の知能の発達段階説において、「母親の姿が見えなくとも声がすれば泣かない」という乳児の反応は、前操作期に当たる。
- 2 おはじきの並べ方にかかわらず、「数は同じ」と答えられるのは、「数の保存」概念の獲得である。
- 3 フロイト (Freud.S) は、各発達段階で欲動の達成が阻害されると、その発達段階での心理的拡散が起こり、神経症症状が引き起こされると考えた。
- 4 マーシア(Marcia.J.E)は、アイデンティティ・ステイタスには、同一性達成、モラトリアム、早期完了の3つの状態像があるとした。
- 5 エリクソン(Erikson.E)の発達段階に基づけば、アイデンティティの確立は青年期に限定された課題であるといえる。

12. 発達段階に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ピアジェ(Piaget.J)の知能の発達段階説において、「母親の姿が見えなくとも声がすれば泣かない」という乳児の反応は、前操作期に当たる。→「対象の永続性」は感覚運動的知能期。
- 2 おはじきの並べ方にかかわらず、「数は同じ」と答えられるのは、「数の保存」概念の獲得である。
- 3 フロイト (Freud.S) は、各発達段階で欲動の達成が阻害されると、その発達段階での心理的拡散が起こり、神経症症状が引き起こされると考えた。  
→心理的拡散ではなく、その発達段階への固着→神経症状 というフロイトの考え。
- 4 マーシア(Marcia.J.E)は、アイデンティティ・ステータスには、同一性達成、モラトリアム、早期完了の3つの状態像があるとした。  
→同一性拡散を加えて4つ。
- 5 エリクソン(Erikson.E)の発達段階に基づけば、アイデンティティの確立は青年期に限定された課題であるといえる。→エリクソンによればアイデンティティの確立は生涯にわたる課題。

1-11. 発達に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 ライフサイクルに焦点を当て発達段階説を唱え、特に青年期の発達課題はアイデンティティの獲得だとしたのはボウルビイ(Bowlby, J. M.)である。
- 2 ピアジェ(Piaget, J)は人の発達、内在する遺伝的なものが時間の経過とともに現れると考える成熟優位説を唱えた。
- 3 ワトソン (Watson, J. B.) は人の発達には遺伝的要因と環境的要因の相互作用が影響を与えると考えた。
- 4 ハーロー (Harlow, H.) は思考・認知の発達特徴から、感覚運動期などの4段階の発達段階説を唱えた。
- 5 エリクソン (Erikson, E. H.) は老年期の発達課題を自分の人生を省みて受け入れることとし、受け入れられない場合、死を受け入れることができないなどの絶望の危機状態に陥るとした。

1-11. 発達に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 ライフサイクルに焦点を当て発達段階説を唱え、特に青年期の発達課題はアイデンティティの獲得だとしたのはボウルビイ(Bowlby, J. M.)である。→ボウルビイはアタッチメント理論。記述はエリクソンの説明。
- 2 ピアジェ(Piaget, J.)は人の発達、内在する遺伝的なものが時間の経過とともに現れると考える成熟優位説を唱えた。→ゲゼルの理論。ピアジェは思考・認知の発達段階説。
- 3 ワトソン(Watson, J. B.)は人の発達には遺伝的要因と環境的要因の相互作用が影響を与えると考えた。→ワトソンは環境説。記述はシュテルンの輻輳説。
- 4 ハーロー(Harlow, H.)は思考・認知の発達特徴から、感覚運動期などの4段階の発達段階説を唱えた。→ハーローのアカゲザルの代理母実験→アタッチメントにはスキンシップが重要。→記述はピアジェの理論。
- 5 エリクソン(Erikson, E. H.)は老年期の発達課題を自分の人生を省みて受け入れることとし、受け入れられない場合、死を受け入れることができないなどの絶望の危機状態に陥るとした。→老年期の発達課題と危機は、「自我統合」と「絶望」

1-12. ストレスに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 セリエ(Selye, H.)の汎適応症候群では、ストレス時の状態を警告反応期と疲弊期の2段階に分類している。
- 2 フラストレーション(欲求不満)耐性は、生まれつき備わっているものである。
- 3 急性ストレス障害(ASD)の症状は、外傷を受けて3か月以内に始まるが、数か月や数年たってから現れることがある。
- 4 燃え尽き症候群という意味での「バーンアウト」の概念を最初に提唱したのは、フロイデンバーガー(Freudenberger, H. J.)である。
- 5 マスラック(Maslach, C.)らが開発したバーンアウト尺度(MBI)は、情緒的消耗感と個人的達成感の低下の2項目から構成される。

1-12. ストレスに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1 セリエ (Selye, H.) の汎適応症候群では、ストレス時の状態を警告反応期と疲弊期の2段階に分類している。→警告反応期、抵抗期、疲弊期の3段階

2 フラストレーション (欲求不満) 耐性は、生まれつき備わっているものである。

→生得的というより、いろいろな経験によって形成される。

3 急性ストレス障害 (ASD) の症状は、外傷を受けて3か月以内に始まるが、数か月や数年たってから現れることがある。

→外傷直後に発症する一過性の症状をいう。記述は、心的外傷後ストレス障害 (PTSD) の説明。

4 燃え尽き症候群という意味での「バーンアウト」の概念を最初に提唱したのは、フロイデンバーガー (Freudenberger, H. J.) である。

→継続的に達成感が得られず、努力が報われにくい状況で、やる気ややりがいを持って、心身共に疲れ果ててしまう不適応状況を指す。

5 マスラック (Maslach, C.) らが開発したバーンアウト尺度 (MBI) は、情緒的消耗感と個人的達成感の低下の2項目から構成される。

→「脱人格化」を加えて3項目。

2-12. ストレスに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1 汎適応症候群における抵抗期のショック相では、体温や血圧の上昇や心拍数の増加などの症状がみられる。

2 ストレスフルな状況において、カラオケなどをして気分転換することは、問題焦点型コーピングである。

3 精力的に活動してきた介護者が、無気力な態度をみせるようになっても、仕事を続けていれば、バーンアウトの可能性は考えにくい。

4 ストレッサーの中でもライフイベントは、自分の生活が大きく変化する出来事ほど大きな影響を与えやすいとされている。

5 労働安全衛生法の改正に基づくストレスチェック制度では、ストレスチェックを行うのは労働者が100人以上の事業所とされている。

2-12. ストレスに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 汎適応症候群における抵抗期のショック相では、体温や血圧の上昇や心拍数の増加などの症状がみられる。→記述の症状は、警告期の反ショック相でみられる症状。
- 2 ストレスフルな状況において、カラオケなどをして気分転換することは、問題焦点型コーピングである。→情動焦点型コーピング
- 3 精力的に活動してきた介護者が、無気力な態度をみせるようになっても、仕事を続けていれば、バーンアウトの可能性は考えにくい。→仕事を続けていても義務的・機械的にこなしていることが多くなる。
- 4 ストレッサーの中でもライフイベントは、自分の生活が大きく変化する出来事ほど大きな影響を与えやすいとされている。→配偶者との死別など、ストレスの大きな原因となる。
- 5 労働安全衛生法の改正に基づくストレスチェック制度では、ストレスチェックを行うのは労働者が100人以上の事業所とされている。→労働者が50人以上の事業所で実施義務がある。

13. 次のうち、職業など特定の活動に適した素質をもっているかを判定するために用いられる心理検査で、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 ロールシャッハ・テスト
- 2 内田クレペイン精神検査
- 3 バウムテスト
- 4 文章完成法(SCT)
- 5 長谷川式認知症スケール(HDS-R)

13. 次のうち、職業など特定の活動に適した素質をもっているかを判定するために用いられる心理検査で、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 ロールシャッハ・テスト →**投影法による人格検査。**
- 2 内田クレペイン精神検査 →**事務作業や技能的な作業能力への適性を見る作業検査。**
- 3 バウムテスト →**投影法による人格検査。**
- 4 文章完成法(SCT) →**投影法による人格検査。**
- 5 長谷川式認知症スケール(HDS-R) →**認知機能検査。**

## 心理検査

2-13. 人格に関わる心理検査に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 P-Fスタディ(絵画欲求不満検査)では、様々な見方のできる人物によるいろいろな場面が描かれた絵を見せて、自由に物語を作らせ、隠れた欲求やコンプレックスを明らかにして人格特徴を分析する。
- 2 MMPIは、人格的・社会的不適応の種別と程度を評価し判定するためのテストであり、人格特徴を多種多様の角度から把握できる。
- 3 TAT(絵画・主題統覚検査)では、A4判の白紙に「1本の実のなる木」の絵を描かせることで、性格や欲求を分析する。
- 4 バウム・テストでは、短い刺激語の後に自由に言葉を補い文章を完成させ、性格や価値観などを分析する。
- 5 SCT(文章完成法検査)では、結果を5つの自我状態に分け、そのグラフのパターンから性格を診断する。

## 心理検査

2-13. 人格に関わる心理検査に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 P-Fスタディ（絵画欲求不満検査）では、様々な見方のできる人物によるいろいろな場面が描かれた絵を見せて、自由に物語を作らせ、隠れた欲求やコンプレックスを明らかにして人格特徴を分析する。→TAT（絵画・主題統覚検査）の説明。
- 2 MMPIは、人格的・社会的不適応の種別と程度を評価し判定するためのテストであり、人格特徴を多種多様の角度から把握できる。
- 3 TAT（絵画・主題統覚検査）では、A4判の白紙に「1本の実のなる木」の絵を描かせることで、性格や欲求を分析する。→記述はバウム・テストの説明。
- 4 バウム・テストでは、短い刺激語の後に自由に言葉を補い文章を完成させ、性格や価値観などを分析する。→記述はSCT（文章完成法検査）の説明。
- 5 SCT（文章完成法検査）では、結果を5つの自我状態に分け、そのグラフのパターンから性格を診断する。→記述は、新版TEG-II（東大式エゴグラム）の説明。

1-13. 心理検査に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 矢田部・ギルフォード（Y-G）性格検査は、交流分析理論に基づき、自我状態を5つに分けて診断する検査である。
- 2 ロールシャッハテストは発達検査で、（姿勢・運動）、（認知・適応）、（言語・社会）の3領域を検査することができる。
- 3 改定長谷川式簡易知能評価スケールは、認知機能障害を判定する質問式のテストで、主に統合失調症の診断をする際に使用する。
- 4 遠城寺式幼児分析的発達検査は、様々な見方のできる人物によるいろいろな場面が描かれた絵を見て、自由に物語を作らせ発達の様子を見る検査である。
- 5 ウェクスラー式知能検査は、WPPSI、WISC、WAISと年齢に応じた検査があり、IQの測定を行うものである。

1-13. 心理検査に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 矢田部・ギルフォード（Y-G）性格検査は、交流分析理論に基づき、自我状態を5つに分けて診断する検査である。→記述は新版TEG-II（東大式エゴグラム）の説明。
- 2 ロールシャッハテストは発達検査で、（姿勢・運動）、（認知・適応）、（言語・社会）の3領域を検査することができる。→記述は、新版K式発達検査2001の説明。
- 3 改定長谷川式簡易知能評価スケールは、認知機能障害を判定する質問式のテストで、主に統合失調症の診断をする際に使用する。→長谷川式は認知症の診断。進行具合を判断
- 4 遠城寺式幼児分析的発達検査は、様々な見方のできる人物によるいろいろな場面が描かれた絵を見て、自由に物語を作らせ発達の様子を見る検査である。  
→TAT（絵画・主題統覚検査）の説明。
- 5 ウェクスラー式知能検査は、WPPSI、WISC、WAISと年齢に応じた検査があり、IQの測定を行うものである。

14. 行動療法の技法に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 エクスポージャー療法とは、最初から最も強い刺激にさらすことで、不安反応の消去を目指すものであり、強迫神経症の治療などが適応である。
- 2 系統的脱感作法とは、エクスポージャー療法と逆制止法を合わせた技法であり、イメージではなく、現実場面を使う。
- 3 アサーション・トレーニングでは、自分の意見を曲げず、相手に納得させることのできるような表現を身につけることを目的とする。
- 4 社会生活技能訓練（SST）は認知行動療法の一つで、診療報酬の対象となっている。
- 5 モデリング法は、自分の行動を観察することで行動様式を学習したり、反応パターンを変化させるやり方をいう。

14. 行動療法の技法に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

1 エクスポージャー療法とは、最初から最も強い刺激にさらすことで、不安反応の消去を目指すものであり、強迫神経症の治療などが適応である。→フラッディングの説明。

2 系統的脱感作法とは、エクスポージャー療法と逆制止法を合わせた技法であり、イメージではなく、現実場面を使う。

→現実の不快刺激によるものとイメージの中での刺激を用いるものがある。

3 アサーション・トレーニングでは、自分の意見を曲げず、相手に納得させることのできるような表現を身につけることを目的とする。

→自分の意見を率直に伝え、相手の意見を尊重し、合意点を見出そうとする姿勢と表現をいう。

4 社会生活技能訓練（SST）は認知行動療法の一つで、診療報酬の対象となっている。

5 モデリング法は、自分の行動を観察することで行動様式を学習したり、反応パターンを変化させるやり方をいう。→モデリングの技法は、模倣や観察学習などを理論的背景とする。観察学習は、バンデューラが提唱したものであり、古典的条件づけ、オペラント条件づけに続く学習理論である。

1-14. 心理療法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1 森田療法では、生来の素質を有する者が何らかの誘因によって精神交互作用を起こすことで、神経症の症状が発展すると考える。

2 認知行動療法では、課題となる動作を意識的に実現しようとする努力を通して、クライアントの日常生活における活動を活性化しようとする。

3 ブリーフセラピーでは、長期間にわたって様々な治療を行うことによって、課題の解決を図る。

4 シェーピング法では、個別に作成された不安階層表を基に、リラックスした状態下で不安の誘発度の最も低い刺激から徐々に刺激が増やされ、段階的に不安を克服していく。

5 社会生活技能訓練（SST）では、心理的な問題がない人々に対しても、さらなる心理的成長を目指すグループアプローチとしても用いられる。

1-14. 心理療法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 森田療法では、生来の素質を有する者が何らかの誘因によって精神交互作用を起こすことで、神経症の症状が発展すると考える。  
→記述は動作法の説明。
- 2 認知行動療法では、課題となる動作を意識的に実現しようとする努力を通して、クライアントの日常生活における活動を活性化しようとする。  
→記述は系統的脱感作法の説明。
- 3 ブリーフセラピーでは、長期間にわたって様々な治療を行うことによって、課題の解決を図る。→ブリーフは、短期間。
- 4 シェーピング法では、個別に作成された不安階層表を基に、リラックスした状態で不安の誘発度の最も低い刺激から徐々に刺激が増やされ、段階的に不安を克服していく。  
→記述はエンカウンターグループ。
- 5 社会生活技能訓練（SST）では、心理的問題がない人々に対しても、さらなる心理的成長を目指すグループアプローチとしても用いられる。  
→記述はエンカウンターグループ。

2-14. 心理療法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 箱庭療法は、子どものみが対象の心理療法で、砂箱に好きなミニチュア人形などを置いて作品を作らせ、それが心の中をイメージしていると考えられる心理療法である。
- 2 即興劇を通じて人間関係や内的な葛藤状態や思い悩むことを体験することで、個人の創造性や自発性の発展を促すことを目的としている方法を動作療法という。
- 3 家族療法には、様々なアプローチ方法があるが、抱えている問題を個人の問題だと捉える方法が主流である。
- 4 精神分析療法は、フロイト（Freud, S.）によって創始された心理療法であり、イド（エス）、自我（エゴ）、超自我（スーパーエゴ）が働いているとした。
- 5 行動療法における適切な反応や行動に対してトークンを与えることで、目標としている行動へと導く方法をモデリング法という。

2-14. 心理療法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 箱庭療法は、子ども**のみ**が対象の心理療法で、砂箱に好きなミニチュア人形などを置いて作品を作らせ、それが心の中をイメージしていると考えられる心理療法である。  
→大人にも適用できる。
- 2 即興劇を通じて人間関係や内的な葛藤状態や思い悩むことを体験することで、個人の創造性や自発性の発展を促すことを目的としている方法を動作療法という。  
→記述は心理劇（サイコドラマ）の説明。
- 3 家族療法には、様々なアプローチ方法があるが、抱えている問題を個人の問題だと捉える方法が主流である。→主流は、抱えている問題を個人の問題ではなく、家族のシステムの問題だと考えるシステムズ・アプローチである。
- 4 精神分析療法は、フロイト（Freud, S.）によって創始された心理療法であり、イド（エス）、自我（エゴ）、超自我（スーパーエゴ）が働いているとした。
- 5 行動療法における適切な反応や行動に対してトークンを与えることで、目標としている行動へと導く方法をモデリング法という。→記述はトークンエコノミー法。モデリングは観察模倣。